

科目名	看護管理	対象学生・時期	2年生・前期	
		講義時間（単位）	15時間（1）	
講師名	①看護師			
科目目標	1．看護の質を保証するためのマネジメントの基礎について理解する 2．看護管理の目的と機能について理解する 3．組織の一員としての看護師の役割や行動を理解する			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	看護管理とは	1．看護のマネジメントとは 1) 看護マネジメントの三つのレベル 2．看護マネジメントのプロセス 1) マネジメントの方法論 2) マネジメントシステム 3) マネジメントの効率性と効果性 (1) クリティカルパス	講義 演習	①
2	組織で取り組む 看護活動	1．組織とその構造・機能 1) 組織とは 2) 組織の構造と機能 3) 組織における意思決定		
3		2．分業と協働のしくみ 1) 分業 (1) 看護単位（2）交替制勤務 (3) 看護提供システム (チームナーシングなど) 2) 連携と協働 (1) 患者情報に関すること (2) 組織運営に関すること (3) サービスマネジメント		
4		3．働く人を生かすマネジメント 1) 人材マネジメント 2) ダイバーシティ・マネジメント (多様な人材を生かす) (1) ダイバーシティ・マネジメントとは 3) ワークライフバランス (1) ワークライフバランスとは (2) 交代勤務がもたらす労働衛生上の課題 4) 労働環境管理		

5		4. 物品のマネジメント 5. 情報のマネジメント 6. カネのマネジメント 7. 非常時の備え		
6	協働他者と 共にする看護活動	1. チームの効果的機能 2. リーダーシップ 1) リーダーとリーダーシップ 3. フォロワーシップ 4. 継続看護のための協働 1) 継続看護の必要性 2) 継続看護の方法		
7	看護専門職と キャリア	1. 専門職とは 2. 看護専門職としてのキャリア 3. 看護職の生涯学習 1) 継続教育 4. 看護管理に必要な能力		
8	単位認定試験 (45分)			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	・看護の統合と実践 1 看護管理 メディカ出版			
備考				

科目名	医療安全		対象学生・時期	2年生・前期	
			講義時間（単位）	30時間（1）	
講師名	①看護師				
科目目標	1．医療における安全管理の必要性を理解する 2．安全管理の方法を理解する 3．感染予防対策および標準予防策を理解する				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	医療安全と看護	1．医療安全の意味と重要性 2．医療安全に関わる動向 3．医療安全の対象 4．医療安全に関する基礎知識		講義	①
2	事故発生メカニズムとリスクマネジメント	1．事故発生メカニズム 2．事故分析 3．事故対策 1) リスク低減の考え方 2) エラープルーフ 3) リスクマネジメント			
3	診療の補助の事故防止	1．看護業務と事故発生要因 1) 看護業務の環境とリスク 2) 医療安全とコミュニケーション 2．誤薬と事故防止			
4		3．患者取り違え（誤認）対策 4．針刺しと対策			
5		5．異物遺残と対策 6．皮膚障害と対策 7．医療機器のトラブルと対策			
6		8．検査、処置時のトラブルと対策 9．チューブ類のトラブルと対策 10．電子カルテ等情報伝達時のトラブルと対策			
7	療養上の世話の事故防止	1．療養上の世話における2群の事故のとらえ方と防止（総論） 2．転倒・転落事故防止			
8		3．摂食中の窒息・誤嚥事故防止 4．異食事故防止 5．入浴中の事故防止			

9	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因	1. 業務領域をこえて共通する患者間違い 2. 間違いを誘発する多重課題, タイムプレッシャーと業務途中の中断 3. 新人特有の危険な思い込みと行動パターン	講義 演習	
10	組織的な安全管理体制への取り組み	1. 組織としての医療安全対策 2. システムとしての事故防止の具体例 3. 重大事故発生時の医療チームおよび組織の対応 4. 院内暴力	講義	
11	医療事故分析	1. 事故分析の方法 2. 原因・誘因・事故後の対応	講義 演習	
12	チームで取り組む安全文化の醸成	1. チーム医療の発展と課題 2. チームSTEPPS		
	防災対策	1. 災害時初動体制 2. 災害対応マニュアル	講義	
13	感染管理 (感染予防対策)	1. 感染の危険を伴う病原体 2. 感染に対する標準予防策 3. CDCガイドライン		
14		4. 医療機器の使用に関わるもの 5. 医薬品への曝露と対応		
15	単位認定試験 (45分) まとめ			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	・看護の統合と実践 2 医療安全 メディカ出版			
備考				

☆：実務経験のある教官等による授業科目の授業計画書（シラバス）

科目名	臨床看護技術演習	対象学生・時期	2年生・後期	
		講義時間（単位）	30時間（1）	
講師名	①教官☆ ②教官☆			
科目目標	1．複合的な条件の事例を予測性・個別性をもってアセスメントし実践できる能力を習得する 2．卒業時の技術到達度をふまえて自己の看護技術の達成状況と課題を明確にする			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	同一患者の多重課題	1．同一患者の優先順位 1) 優先順位の考え方 （1）マズローの欲求5段階説 （2）計画の順序 （3）報告・連絡・相談 2) 事例提示 3) 事例分析 （1）対象理解 （2）検査・治療・看護	講義	①
2		4) 計画立案	個人ワーク	
3		5) 計画の検討	グループワーク	
4		6) 事例のシミュレーション	シミュレーション	
5		7) 振り返り	グループワーク	
6	複数患者の多重課題	1．複数患者の多重課題 1) 複数患者の多重課題への対処 （1）多重課題のパターン （2）多重課題の回避と対処 （3）緊急度と重症度 （4）多重課題対処の5つの視点 （5）多重課題に対応する能力の身につけ方 2．事例提示	講義	
7		1) 事例分析 （1）対象理解（2）検査・治療・看護 2) 計画立案	個人ワーク	
8		3) 計画の検討	グループワーク	

9		4) 事例のシミュレーション	シミュレーション	
10		5) 振り返り	グループワーク	
11	臨床判断	1. 臨床判断モデル 1) タナーの臨床判断	講義	②
12	12誘導心電図	1. 12誘導心電図 1) 計測の実際	演習	
13				
14	点滴静脈注射	1. 点滴静脈注射 1) 点滴静脈注射の実際	演習	
15				
評価方法		課題		
使用テキスト	・看護の統合と実践1 看護管理 ・看護の統合と実践2 医療安全 ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ ・系統看護学講座 別巻 臨床検査 ・根拠がわかる症状別看護過程		メディカ出版 メディカ出版 医学書院 医学書院 医学書院 南江堂	
備考				

科目名	国際・災害看護	対象学生・時期	2年生・後期	
		講義時間（単位）	30時間（1）	
講師名	①外部講師 ②外部講師 ③外部講師 ④外部講師			
科目目標	1．国際看護における看護の役割を理解する 2．看護職としての諸外国との協力のあり方を理解する 3．国際社会における医療福祉の現状を理解する 4．災害の定義および災害医療の概要を理解する 5．災害サイクルにおける保健医療ニーズや活動の場に応じた看護を理解する 6．我が国における災害対策と災害救助活動を通して、国際協力の必要性を理解する			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	国際看護とは	1．世界の健康問題の現状 2．国際看護の概念・目的 3．国際社会における看護の対象 4．看護者に求められる能力 5．国際看護の枠組み	講義	①
2	グローバルヘルス	1．プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション 2．人間の安全保障 3．ミレニアム開発目標（MDGs） 4．持続可能な開発目標（SDGs） 5．ユニバーサルヘルスカバレッジ（UHC）		
3	国際看護の現状	1．国際協力のしくみ 1）国際救援・保健医療協力分野で活躍する国際機関 2）国際救援の調整 3）開発協力		
4		2．多様な文化と看護 1）異文化を考慮した看護 2）在日外国人への看護活動		
5		3．開発協力と看護 1）開発途上国と看護 4．国際救援と看護 1）災害と難民・国内避難民の現状 2）国際救援活動の基本理念		

6	災害医療の基本	1. 災害とは 2. 求められる災害看護学 3. 災害医療・看護の基礎知識 4. 災害看護の歩み	講義	②
7	災害医療の特徴	1. 災害医療の特徴 2. NBC災害 3. CSCATTT		
8		4. 災害と情報 5. 災害対応に関わる多職種		
9	災害看護の役割	1. 災害看護の役割、対象者 2. サイクル別の看護介入	講義 演習	②③④
10	災害サイクルに応じた看護活動	1. 災害サイクルに応じた看護活動 1) 急性期～亜急性期	講義	
11		2) トリアージ		
12		3) 慢性期～静穏期 2. 災害とこころのケア		
13	災害時に必要な技術	1. S T A R T法トリアージ	演習	
14		2. 搬送について 3. 応急処置（止血含む）、CPR		
15	単位認定試験（45分） まとめ			②
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	・系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践3 災害看護学・国際看護学 医学書院			
備考				

実習科目	統合実習	対象学生・時期	2年生・後期
		講義時間（単位）	90時間（2）
実習目的	領域別看護の実習を踏まえ、保健医療チームの一員として看護を統合的、継続的に実践できる能力を習得する。主に複数の受け持ち患者の看護の実践、看護チームにおける役割の理解、24時間の看護の実際について学ぶ。		
実習目標および内容			
1. 看護チームの一員として、対象の状況や個別性をふまえ適切な方法で看護を提供することができる。 1) 受け持ち患者の療養環境・療養生活を踏まえて総合的に患者を捉えることができる。 2) 受け持ち患者の健康問題を把握し優先順位を決定できる。 3) 受け持ち患者の状況や個別性をふまえた看護計画が立案できる。 4) 複数の患者の優先度を考慮し1日の行動計画が立案できる。 5) 患者の状況や病棟業務の変化に応じ優先度を考慮して行動計画を変更できる。 6) 限られた時間の中で複数患者に必要な援助ができるように時間管理ができる。 7) 受け持ち患者の援助を安全・安楽に実施できる。 8) 適時・適切な報告・連絡・相談ができる。 9) 受け持ち患者の状況・看護の評価を次の勤務帯に引き継ぐ必要性が述べられる。			
2. 看護チームにおけるリーダーシップ・メンバーシップの重要性と看護の継続性について理解する。 1) 病棟の運営体制が述べられる。 2) 看護チームにおけるメンバーの役割が述べられる。 3) 看護チームにおけるリーダーの役割が述べられる。 4) 医療チームの他職種連携における看護師の役割が述べられる。 5) 夜勤帯における安全管理が述べられる。 6) 夜勤帯における看護の特徴が述べられる。 7) 夜間帯の患者の状況に応じた看護が述べられる。 8) 病棟管理者の役割と管理が述べられる。			
3. 実習を通して自己の課題を明確にすることができる。 1) 周囲の状況を把握し、良好な人間関係を築くことができる。 2) 主体的・効果的に学習できる。 3) 看護の専門職者として今後の自己課題を明確にできる。			
評価方法	評価表による評価		